

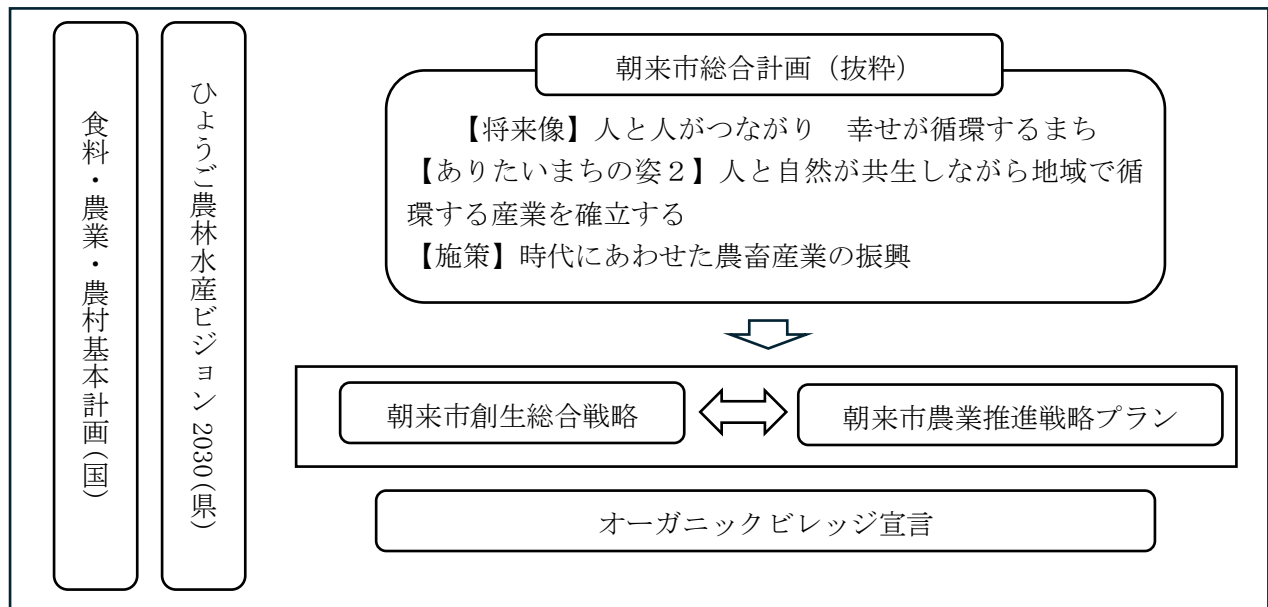
朝来市農業推進戦略プラン 2025 概要版

1 策定の趣旨と背景

市では、農業を取り巻く情勢が、日々刻々と世界規模で大きく変化している中、発展的な農業生産による基盤強化、産業としての取組による地域の発展によって豊かな産地形成を目指し、現行プランの実施状況などを評価・検証し、内外の情勢の変化、今後の見通し、関連計画との整合性、農業関係者からの意見等を勘案し新たなプランを策定する。

2 農業推進戦略プランの位置づけ

本プランは、本市の上位計画である「第3次朝来市総合計画」に盛り込まれた、農業関連施策であるありたいまちの姿2の「人と自然が共生しながら地域で循環する産業を確立する」の実現に向け、今後の農業振興を図り、農業発展の礎とするための指針とする。



3 計画期間と検証

本プランの計画期間は、令和7年度から11年度までの5年間とする。

国内の経済・社会情勢の変化や国の農業施策の動向など、様々な環境変化に対応しながら、取組施策の実施状況、成果、数値目標の達成状況等について、必要に応じて検証、見直しを行う。

4 朝来市の農業の課題

- (1) 担い手における課題
- (2) 農地における課題
- (3) 生産・販売における課題

5 農業振興の基本理念

作る農業から儲ける農業へ

『豊かな産地形成・持続可能な農業経営の実現』

6 農業振興の基本目標

農業の課題及び基本理念を達成するため農業振興の基本目標を次のように設定する。

- (1) 農地利用対策の進展
- (2) 担い手の確保と育成
- (3) 出口戦略の確立
- (4) 成長戦略の立案・スマート農業の展開
- (5) 地域としての取り組み

目標を達成するため、以下に目標数値を設定し、P D C Aサイクルにより年度毎に進捗管理を行い、施策評価を実施するとともに追加、修正を行うこととする。

「朝来市農業推進戦略プラン」の目標達成に向け最も重視すべき指標

最も重視すべき指標名	現状(基準)	目標	
		中間(R9)	最終(R11)
朝来市全体の農業収入額	10.5 億円	11.0 億円	12.0 億円

「朝来市農業推進戦略プラン」の具体的目標

成果目標指標名	現状(基準)	目標	
		中間(R9)	最終(R11)
小規模及び高齢化生産者	1,010 戸	950 戸	910 戸
小規模及び高齢化生産者の出荷額	12,604 千円	12,000 千円	11,000 千円
遊休農地の整理	25ha	20ha	15ha
遊休農地の活用	無	10ha	15ha
新規女性農業従事数	3 人	10 人	20 人
農地集積率	40%	50%	60%
認定農業者数(土地利用型農業者)	29 人	35 人	40 人
水稻の耕作面積	889ha	850ha	850ha
朝来市産米の出荷額	9.9 億円	9.5 億円	9.5 億円
コウノトリ育むお米の栽培面積	78.2ha	85ha	100ha
岩津ねぎ生産面積	29.8ha	40ha	50ha
岩津ねぎの生産量/10a	1.1 t	1.5 t	1.8 t
岩津ねぎの出荷額	1.3 億円	1.7 億円	2.1 億円
岩津ねぎ以外の白ねぎの生産面積(通年栽培への移行)	4.5ha	6ha	8ha

岩津ねぎ以外の白ねぎの出荷額（通年栽培への移行）	45,000 千円	60,000 千円	80,000 千円
黒大豆の生産面積	22ha	25ha	30ha
黒大豆の出荷額	27,000 千円	30,000 千円	35,000 千円
たじまピーマンの生産面積	0.9ha	1.5ha	2.0ha
たじまピーマンの出荷額	16,720 千円	26,000 千円	34,500 千円
朝倉さんしょの生産面積	4.6ha	6.0ha	7.0ha
朝倉さんしょの生産額	27,195 千円	35,400 千円	41,300 千円
土壌診断箇所数	34 箇所	40 箇所	50 箇所
農業用ビニールハウス設置数	55 棟	60 棟	65 棟
新規就農者数（研修制度含む）	36 人	43 人	50 人
農業関係セミナーの開催	無	2 回	2 回
農地中間管理機構関連農地整備事業の活用	1 地区	1 地区	1 地区
学校給食への地元食材供給率	36%	40%	70%
有機農業の面積拡大	10.0ha	15.0ha	20.0ha
有機 J A S 取得農業者数	2 人	5 人	13 人
有機農業の普及（講習会等）	2 回	3 回	6 回
学校給食での無農薬米等の提供	月 3 回	月 6 回	完全実施
獣害被害面積	2.7ha	2.5ha	2.3ha
獣害被害額	3,503 千円	3,300 千円	2,800 千円
新規狩猟者の育成（罟猟従事者）	3 人	10 人	15 人
狩猟者講習会の開催	1 回	2 回	2 回

※人数は当該年度の数

7 施策体系図

将来像と大切な考え方（第3次朝来市総合計画）

【将来像】

人と人がつながり 幸せが循環するまち ～対話で拓く朝来市の未来～

【まちづくりを進めていくうえでの大切な考え方】

「市民一人一人が主役」 「人と人をつなぐ対話」 「未来へのまなざし」

【ありたいまちの姿2：人と自然が共生しながら地域で循環する産業を確立する】

【施策：「時代にあわせた農畜産業の振興」】

朝来市農業推進戦略プラン 2025 の基本理念

作る農業から儲ける農業へ『豊かな産地形成・農業の新産業化』

基本目標 1

農地利用対策の進展

【施策の展開】

- 1-1) 小規模生産者、高齢生産者向けの出荷作業、販路確保支援
- 1-2) 出荷の躊躇分、自家消費分の一部、廃棄していた規格外品の出荷
- 1-3) 農作業に対する効率化支援
- 1-4) 他作物や維持可能方法の選択
- 1-5) 土壌に適したアイテム導入検討
- 1-6) 土地改良事業の活用
- 1-7) 土地の有効利用
- 1-8) 地域計画の実現に向けた取り組み

基本目標 2

担い手の確保と育成

【施策の展開】

- 2-1) 実行可能な計画立案
- 2-2) 個人、法人向けの特色のある募集活動実施
- 2-3) 多様な参加を促進
- 2-4) 多様な年齢層のワークシェアによる活性化
- 2-5) 組織経営による推進グループの育成
- 2-6) 雇用機会の提供を可能とする組織の育成
- 2-7) 認定農業者協議会の発展及び充実
- 2-8) 小規模乱立から事業展開メリットの共有

基本目標 3

出口戦略の確立

【施策の展開】

- 3-1) 出口戦略推進体制の確立
- 3-2) 流通対策による販路の明確化
- 3-3) 市場ニーズに沿った供給体制への転換
- 3-4) 加工出荷の実現
- 3-5) 出荷品質の確保(保証)

基本目標 4

成長戦略の立案・スマート農業の展開

【施策の展開】

- 4-1) 有機農業産地づくり
- 4-2) 自然の恩恵と食の情報提供
- 4-3) 広域出荷による産地としての活性化
- 4-4) スマート農業導入による将来展開
- 4-5) 6次産業化による取組の開始

基本目標 5

地域としての取り組み

【施策の展開】

- 5-1) 調理方法の提案や各種情報提供による利用促進
- 5-2) 駆除を中心とした取組や生息管理
- 5-3) 遊休農地拡大防止と防御アイテムの栽培
- 5-4) 本市の特色を活かしたPRのあり方
- 5-5) 既存の枠に捕らわれない活動支援
- 5-6) 市民を巻き込んだ情報発信
- 5-7) 楽農生活の提案